一茶俳句集

一茶俳句集_下载链接1_

著者:小林一茶

出版者:岩波書店

出版时间:1990-5

装帧:文庫

isbn:9784003022313

出版社/著者からの内容紹介

一茶（一七六三 - 一八二七）は晩年にいたるまで作句力の衰えを知らず生涯に約二万句の俳句をのこした．ここにはその中から二千句を選んで制作年代順に配列し脚注を付す．順をおって本書を読むことは句を通して一茶の生涯をたどることに他ならない．その句は詩人の生きぬいた苛酷な人生を反映し，鮮烈にして個性的な「人生詩」となっている．

内容（「BOOK」データベースより）

一茶は晩年にいたるまで作句力の衰えを知らず生涯に約二万句の俳句をのこした。ここにはその中から二千句を選んで制作年代順に配列し脚注を付す。その句は詩人の生きぬいた苛烈な人生を反映し、鮮烈にして個性的な「人生詩」となっている。

目次

寛政期

享和期

文化前期

文化後期

文政前期

文政後期

年次不詳

作者介紹:

一茶の俳句集です。ソウルフルなものもユーモラスなものもあって、ふだん俳句と縁のない人でも楽しめます。

以下に、気に入った俳句をいくつか挙げてみます。

・「米蒔くも罪ぞよ鶏(とり)がけあふぞよ」・・「けあふ」とは、
蒔き米を争ってkickしあうということらしいです。これを読んで、国連軍による支援物資を奪い合う難民の姿を想像してしまいました。支援も下手にすると争いの元になるのかもしれません。

・「かれ芒(すすき)人に売(うら)れし一つ家」・・無常感がむんむん漂ってきます。
感極まって、「無常なり ああ無常なり
無常なり」という変な川柳を思いつきました。

・「とべよ蚤(のみ)同じ事なら蓮(はす)の上」・・人間は蚤のように小さいけれど、
どうせなら望みは高く持ちたいものですね。

・「御仏(みほとけ)や寝てござつても花と銭」・・これはあくまで仏だから許されるのであり、人だったら許されないでしょう。世の中、ラクしてお金儲けすると妬まれます。ビルゲイツ氏には、１日に約400万通くらい嫌がらせメールが来るそうです。

こんなことを書くと真面目な一茶ファンに袋叩きにされそうですが、俳句を読んでいろいろ自由に想像するのも、俳句の楽しみ方の一つとしてアリではないでしょうか。

他にも、以下のような俳句が気に入りました(私は獣医なので、動物関係が多いです)。

・馬の屁に目覚て見れば飛(とぶ)ほたる

・今しがたこの世に出し蝉の鳴く

・手の皺が歩みにくいか初蛍

・蝿打ちに叩かれ給う仏哉

・寝るてふにかしておくぞよ膝がしら

・木兎(みみずく)が杭にちよんぼり夜寒哉

・寝た犬にふはとかぶさる一葉哉

・云(いひ)ぶんのあるつらつきや引(ひき)がへる

・東風(こち)吹くや堤(どて)に乗せたる犬の顎

・猫の子のくるくる舞(まひ)や散る木のは

・重荷負(おふ)牛や頭につもる雪

・どこを押せばそんな音が出る時鳥(ほととぎす)

目录:

一茶俳句集_下载链接1_

标签

俳句

小林一茶

日本文学

日本文學

日本

文学

诗歌

一茶

评论

真美啊，透过纸窗波动，看银河。

不要打啊 苍蝇在搓他的手 搓他的脚呢 】 期待翻译

不知道为什么这么美的句子评分不高

多读点（要先附庸风雅才能风雅

“やれ打な/蠅が手をすり/足をする” “椋鳥と/人に呼ばるる/寒さかな” 露の世は/露の世ながら/さりながら”

「喰うて寝てことしも今よひ一夜哉」（这句哭了…），真的只是本俳句集而已，毕竟诗句本身很短，一页放六句，书近四百页，读起来太累了。

我知道，然而，然而

「到我这里来玩哟，没有爹娘的麻雀。」直戳泪点。

月の下 花を眺めて 君を思う 過ぎし日のこと 来る日のことを。

看俳句的男孩子都是gay

一茶俳句集_下载链接1_

书评

一茶俳句集_下载链接1_